iPS 細胞研究の推進に向けた検討状況について

平成 20 年 2 月 20 日

京 都 大 学

1. 京都大学における体制整備に関する検討状況

(1)iPS 細胞研究センターの整備

- ①平成 20 年 1 月 22 日 世界トップレベル研究拠点 物質－細胞統合システム拠点に iPS 細胞研究を推進する我が国における中核研究拠点として「iPS 細胞研究センター」を設置した。
- ②iPS 細胞研究センターは、外部有識者及び関係研究者等からの意見を取り入れて運営し、全国の関係研究者との学術協力により iPS 細胞研究を推進する開かれた研究組織とする。(参考1)
- ③研究者の相互交流に配慮した開かれた研究活動の場として、iPS 細胞研究センター等に係る組織体制、設備、施設などの研究環境の整備を図る。(参考2)
- ④iPS 細胞研究センターは、既に複数の国内の大学・研究機関に対して、MTAに基づきヒト iPS 細胞の配布・技術指導等を行っており、今後さらに充実させ、iPS 細胞の利用の円滑化を促進する。(参考3)

(2)iPS 細胞の知的財産

京都大学の iPS 細胞研究に関わる知的財産については、京都大学産官学連携本部において管理・活用体制の強化を行う。(参考4)

2. 今後の iPS 細胞研究の推進に関する検討状況

(1)iPS 細胞研究の加速に向けた京都大学の果たす役割

京都大学は、関係研究者と連携し、iPS 細胞の利用の円滑化による共同研究の推進や知的財産等の情報共有をとおして、我が国における iPS 細胞研究を加速させ、推進する。(参考5)

(2)iPS 細胞を含む幹細胞研究の知的財産の強化について

iPS 細胞等の研究を推進する大学・研究機関が所有、又は取得する関連知財の強化に向けた知財情報の収集及び知財管理は、実務的な知財管理・活用組織を結成して行うことが適当であるが、そのためには、強固な財政基盤が必要と考える。